

# 常楽寺(上田市)

さまざまな石仏(庚申塔)



一番の見所、石造多宝塔(重要文化財)等です



石造多層塔群は上田市指定文化財となっている



↑  
宝篋印塔

↑  
多宝塔/重要文化財

# 重要文化財常楽寺石造多宝塔

種 別 建造物・石造文化財  
所在地 上田市大字別所温泉二三四七番地  
指定年月日 昭和三六年三月三三日  
材質・寸法 安山岩・総高一七四センチメートル

銘文によれば、天長二年(八一五)、火焰の中から北向観音がこの地に出現した。そこで、木造の宝塔を建立したが、寿永年間(一一八一～八四)に焼失した。弘長二年(一一六二)本塔を造立し、金銀泥で書かれた一切経一切経(イッサイキョウ)一部を奉納したとある。

石造多宝塔の類例は全国的に見ても少なく、特に重要文化財指定となると、本塔と滋賀県の小菩提寺こぼだいじの二基ふたきにすぎない。その本塔は、笠や裳階もてしが鎌倉時代の多宝塔の典型を示しており、全国的に見てもたいへん貴重な遺例である。

## 上田市指定文化財常楽寺石造多層塔

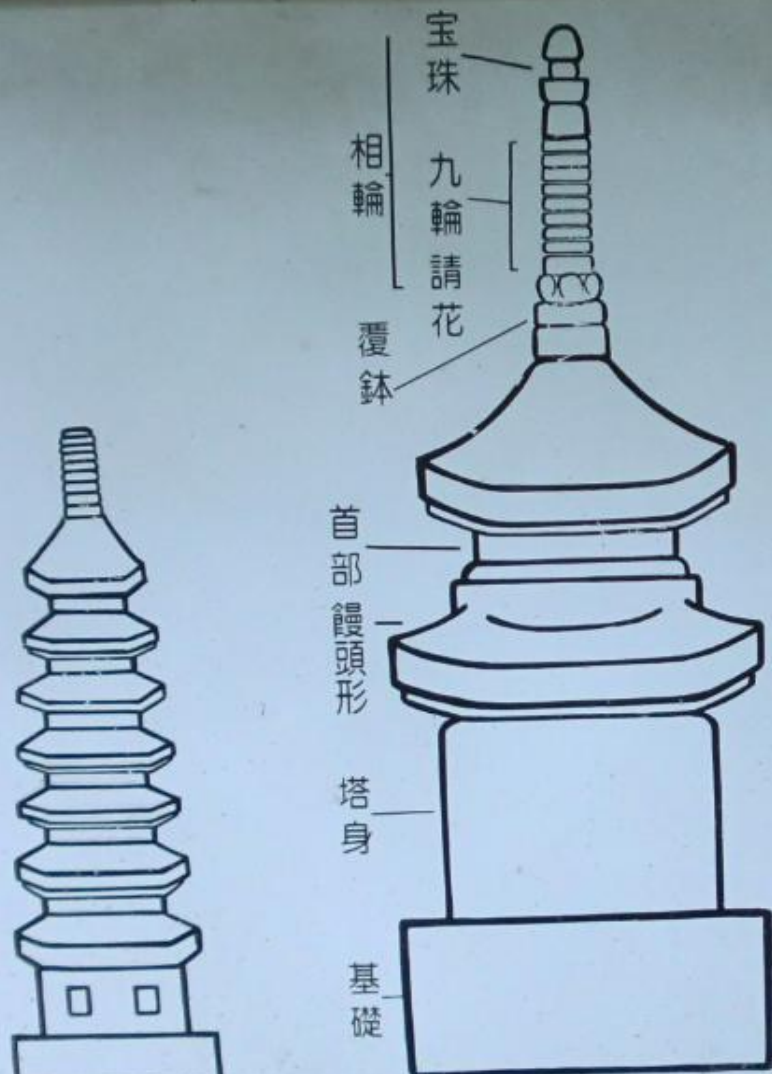
種 別 建造物・石造文化財  
所在地 上田市大字別所温泉二三四七番地  
指定年月日 昭和五九年四月九日  
材質・寸法 安山岩・総高一六三センチメートル

大正二三年(一九一四)、別所温泉大島屋旅館裏で水道工事を行つていた際、地中からたくさんたくさんの多宝塔・多層塔・五輪塔・宝篋印塔ほうきやくいんたうが散乱状態で発見された。この石塔群はその後散逸してしまつていたが、当地の篤学者が関西の旧家にあるのをつきとめ、懇願して昭和五六年、故郷の当地に再建された。

各部位のバランスや形は、古様をよくとどめ、鎌倉時代の作になるものと思われる。

平成五年三月

上田市教育委員会



(重文)石造多宝塔



宝珠の下に竜車・水煙をつけることあり

(市指定)石造多層塔

多宝塔/鎌倉時代



宝篋印塔



こんな燈籠がありました



こんな燈籠もありました

